

# 第78回

## 全国児童養護施設長研究協議会 開催要綱

# 福島 大会

大会  
テーマ

### 子どもが未来を思い描く養育とは

～戦後80年、すべての子どもの幸せな暮らしの実現に向けて  
子育てをリードする児童養護施設の養育文化～

#### 趣旨

令和5年度の児童相談所における児童虐待相談対応件数は22万5,509件（※）と10年前の3倍以上となるなど、子どもをとりまく課題が多様化、深刻化しているなか、今年度から令和11年度までの5年間の後期社会的養育推進計画が始まった。同計画の策定要領では、市区町村における家庭支援事業等を活用した予防的支援による家庭維持を念頭に、代替養育が必要な子どもに対しては、家庭養育優先原則に基づく里親等委託、児童養護施設等の小規模化かつ地域分散化が強力に促進されるなど、児童養護施設を含めた社会的養育は大きな変革期にある。

社会的養育で暮らす子どもは、逆境的な養育環境を体験してきたゆえに、重い課題を抱えている。児童養護施設がもつ、傷ついた子どもたちの回復と成長に伴走する役割は私たちを支える根幹であり、この施設に根付いた養育文化を社会へと広げ、地域の関係機関と連携しながら、「子どもの幸せ」を最優先に据えた社会の実現に寄与することが、私たちに求められている。

本研究協議会では、戦後80年を迎えるなか、戦災孤児の保護から社会的養育を担い続けてきた施設として、すべての子どもが自身の未来を見据えることができる養育について考えるとともに、今日の社会に求められる使命の理解を深める機会として、関係者が一堂に会し、研究協議を行う場としたい。

（※）厚生労働省令和5年度福祉行政報告例

#### 期 日

令和7年 **11月11日**（火）～**13日**（木）

#### 会 場

(1) ビッグパレットふくしま  
〒963-0115 福島県郡山市南2-52

(2) ホテルハマツ  
〒963-8578 福島県郡山市虎丸町3-18

※ JR郡山駅・会場間のシャトルバスを運行します（有料、詳細は別紙）。  
※意見交換会、一部の研究部会会場はホテルハマツとなります。

#### 主 催

社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国児童養護施設協議会  
社会福祉法人福島県社会福祉協議会 児童福祉施設部会

#### 後 援（予定）

こども家庭庁 福島県 郡山市  
社会福祉法人福島県社会福祉協議会

#### 参加対象

- ① 児童養護施設長および職員
- ② 社会福祉法人等役員
- ③ 永年勤続表彰等被表彰者
- ④ 児童福祉関係者

#### 参加定員

**600名**

#### 参加費

**23,000円**

（交通費・宿泊費・交流会費・昼食費は含みません）

## 日程・プログラム

	12:00	13:00	13:55 14:00	14:45	15:30	15:45	17:15	18:30	20:30
第1日 11/11日(火)		受付	開会式 式典	基調 報告 (45分)	行政 説明 (45分)		記念講演 (90分)		意見交換会 (120分)
		絵画展							
第2日 12日(水)	10:00	研究部会				16:00			
		絵画展							
第3日 13日(木)	9:30	資生堂 海外研修 報告	10:00 10:05	シンポジウム (120分)	12:05 12:10	大会総括 閉会式	12:30		
		絵画展							

### 第1日 (11月11日(火)) 13:00～17:15

時間	プログラム
12:00	受付開始
13:00～13:55	<b>開会式・式典</b> (全養協会長感謝、他)
14:00～14:45	<b>基調報告</b> 【領域②③】 全国児童養護施設協議会 会長 高橋 誠一郎
14:45～15:30	<b>行政説明</b> 【領域④】 「社会的養護施策の動向」 こども家庭庁支援局 家庭福祉課
15:30～15:45	休憩
15:45～17:15	<b>記念講演</b> 【領域①②】 「伝えることの大切さ、伝わることの素晴らしさ」 フリーアナウンサー 大和田 新氏  《プロフィール》 神奈川県横須賀市出身。70歳。中央大学法学部政治学科卒。2015年3月、38年間務めたラジオ福島を退社。2011年3月に発生した「東日本大震災」では、12時間マイクの前に立ち情報を伝えるとともに、県民を励まし続けた。東日本大震災から5年3ヶ月をまとめた著書「大和田ノート」(2016年8月出版)は、全国の地方新聞社が主催する「第七回ふるさと自費出版大賞」で優秀賞を受賞。また、2020年11月、「続・大和田ノート」を、2024年9月に「続々、大和田ノート」を出版。担当ラジオ番組「大和田新のラヂオ長屋」(毎週日曜日・午前10時30分～午後1時)は、放送24年の長寿番組。会津大学短期大学部非常勤講師。
18:30～20:30	<b>意見交換会</b> (希望者)

## 第2日 (11月12日(水) 10:00～16:00)

時間	プログラム
10:00～16:00	<p><b>研究部会 (第1部会～第6部会)</b></p> <p><b>会場：ビッグパレットふくしま</b></p> <p><b>第1研究部会「児童養護施設の養育の質をより向上していくための育成の在り方とは」</b>            助言者：増沢 高氏 (子どもの虹情報研修センター センター長)            座長：花田 悦子 (全国児童養護施設協議会 研修部長/福岡県・報恩母の家 施設長)</p> <p><b>第2研究部会「職員の採用、育成、定着を考える～施設の養育文化を未来につなぐために～」</b>            助言者：原野 明子氏 (福島大学人間発達文化学類 教授)            座長：谷口 太郎 (全国児童養護施設協議会 調査研究部長/秋田県・県南愛児園ドリームハウス 施設長)</p> <p><b>第3研究部会「養育文化を地域社会に還元するには～地域支援機能と施設の多機能化を再考する～」</b>            助言者：横堀 昌子氏 (青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授)            座長：松崎 剛 (全国児童養護施設協議会 副会長/福岡県・福岡子供の家 施設長)</p> <p><b>会場：ホテルハマツ</b></p> <p><b>第4研究部会「分離・保護される子どもの権利擁護～新たなソーシャルワークの可能性を探る～」</b>            助言者：河尻 恵氏 (日本福祉大学福祉経営学部 教授)            座長：則武 直美 (全国児童養護施設協議会 副会長/岡山県・岡山聖園子供の家 施設長)</p> <p><b>第5研究部会「安心して社会生活を営むことを目指して～一人ひとりのニーズに寄り添った自立支援とは～」</b>            助言者：山田 勝美氏 (山梨県立大学人間福祉学部 教授)            座長：飯塚 富美 (全国児童養護施設協議会 総務部長/神奈川県・心泉学園 施設長)</p> <p><b>第6研究部会「児童養護施設が取り組むべき課題とは～社会的養育推進計画(後期計画)を受けて～」</b>            助言者：浅田 浩司氏 (葛飾区児童相談所 児童保護担当課長)            座長：川瀬 勝敏 (全国児童養護施設協議会 制度政策部長/長野県・つつじが丘学園 施設長)</p> <p>※【詳細はP4～6を参照】</p>

## 第3日 (11月13日(木) 9:30～12:30)

時間	プログラム
9:30～10:00	資生堂海外研修報告
10:05～12:05	<p><b>シンポジウム【領域②④⑥】</b></p> <p><b>「子どもが未来を思い描く養育とは</b>  <b>～戦後80年、すべての子どもの幸せな暮らしの実現に向けて</b>  <b>子育てをリードする児童養護施設の養育文化～」</b></p> <p>1950年(昭和25年)、全養協設立趣旨では、『わが国の養護施設が真に対象児の幸福を確保するためには、われわれ施設の当事者が、さらに科学的な技術を取り入れ、高度な精神を練磨し、最低基準を根幹とする文化的経済的裏付けを得ることの努力が必要であります。』と示された(全国養護施設協議会設立趣意より一部抜粋)。</p> <p>この時から75年が経つ。時代や子どもの特性にあわせて「残すもの」「代えていくもの」を取捨選択しても先人の高邁な思想は現代においても変わることはない。75年の重みを振り返り継承していくべきものを再確認する。都道府県社会的養育推進計画の後に児童養護施設の育んだ養育文化が職員だけでなく地域にとってもかけがえのないものになるために必要なものは何か、施設の将来像についても考えてみたい。</p> <p><b>シンポジスト</b> 早稲田大学人間科学学術院 教授 <b>上鹿渡 和宏氏</b>            社会福祉法人養徳園 理事長 <b>福田 雅章氏</b>            会津児童園 施設長 <b>佐藤 由美子氏</b></p> <p><b>コーディネーター</b> 全国児童養護施設協議会 副会長 <b>赤池 裕</b></p>
12:10～12:20	<b>大会総括 (大会宣言採択)</b>
12:20～12:30	<b>閉会式 (次期開催地挨拶、閉会挨拶)</b>

## 第1研究部会

### 児童養護施設の養育の質を より向上していくための育成の在り方とは

会場 ビッグパレットふくしま「コンベンションホールA」

**趣 旨** 全国児童養護施設協議会は、児童養護施設の高機能化・多機能化で求められている養育の質を維持・向上するために施設職員の研修体系構築に向けて取り組んできた。

平成27年に「児童養護施設の研修体系～人材育成のための指針」がまとめられ、平成28年度には指針をさらに具現化するための「改訂版」が報告された。

地域分散化・小規模化・高機能化に伴い、各施設の研修の在り方や全養が示した指針の活用方法は地域や施設の実態に応じて様々な取り組みがなされている。「人材定着」の視点においても、職員自身が目指す職員像をイメージできる育成の在り方が問われている。

本研究部会では、各施設で取り組まれている育成の実情や育成体系の構築、研修体系、および職員ごとの研修計画の在り方について議論を深めたい。

**論 点**

- 1 小規模化・地域化の中で養育の質を担保するための取り組みについて
- 2 施設内の育成体系と研修計画について
- 3 「児童養護施設の研修体系～人材育成のための指針」の見直しと活用について  
個々の課題の解決と健全な育ちを支え、自立へと育むための「個別的養育機能」の多様なあり方について

**助言者** 増沢 高 氏 (子どもの虹情報研修センター センター長)

**座 長** 花田 悦子 (全国児童養護施設協議会 研修部長/  
福岡県・報恩母の家 施設長)

## 第2研究部会

### 職員の採用、育成、定着を考える ～施設の養育文化を未来につなぐために～

会場 ビッグパレットふくしま「コンベンションホールB」

**趣 旨** 昨今の社会・経済環境等を背景として、子ども・子育て家庭をめぐる課題は複雑化するとともに厳しさを増している。こうした社会的養護をとりまく変革期において、児童養護施設は24時間365日、緊急的かつ重篤な課題や複雑・多様なニーズがある子どもたちに日々向き合っていかなければならない。

子どもが未来に夢や希望を思い描くために、そしてすべての子どもの幸せな暮らしの実現に向けて児童養護施設の養育文化を継承し、そのあり方の共有が求められる。

そのために、本研究部会では人材確保の有効な手段や育成・定着につながるための実践例を踏まえ、すべての施設が夢や希望を思い描けるものにしたい。

**論 点**

- 1 施設における人材確保の課題
- 2 養育文化を継承するための施設運営
- 3 入職後の育成計画、評価制度・キャリアパス、働きがいの確保等の在り方

**助言者** 原野 明子 氏 (福島大学人間発達文化学類 教授)

**座 長** 谷口 太郎 (全国児童養護施設協議会 調査研究部長/  
秋田県・県南愛児園ドリームハウス 施設長)

## 第3研究部会

### 養育文化を地域社会に還元するには ～地域支援機能と施設の多機能化を再考する～

会場 ビッグパレットふくしま「中会議室」

**趣 旨** 「児童養護施設が担う機能と今後の展望・展開」において、高機能化された施設の様々な養育・支援サービスは、地域の要保護・要支援児童等の支援にも貢献できるものとして、地域支援機能と整理された。

養育の社会化を目指す上で、地域の困難な状況にある子どもや家庭への支援において、施設が重要な役割を担っていくことは必須であり、地域支援の実践が施設の新たな機能として付加されていくことにもなる。

本研究部会では、施設の実情に応じた地域支援のあり方を検討し、地域支援機能と多機能化について協議していく。

- 論 点**
- 1 こども家庭センター等との連携の効果と課題
  - 2 地域支援機能の現状と課題
  - 3 地域支援の実践による施設の多機能化の展望

**助言者** 横堀 昌子 氏（青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授）

**座 長** 松崎 剛（全国児童養護施設協議会 副会長／  
福岡県・福岡子供の家 施設長）

## 第4研究部会

### 分離・保護される子どもの権利擁護 ～新たなソーシャルワークの可能性を探る～

会場 ホテルハマツ「平安の間」

**趣 旨** 近年、児童養護施設に入所する児童の9割以上には親がいる。家庭養育推進の流れの中、劣悪な家庭環境にあっても周囲から発見されず、自ら助けを求め、ようやく社会的養護につながる現状がある。そのようなケースでは、長く過酷な環境下で暮らすうちに子どもの状態は重篤化し、親子関係は複雑化して調整困難となっている。子どもの傷つきが浅いうちに早めに介入し、家族関係再構築支援が可能となるようなアセスメントを目指し、施設も積極的に役割を果たすべき時が来ているのではないだろうか。

本研究部会では、問題の要因や対応について子どもの権利擁護の視点から考えるとともに、新たなソーシャルワークの可能性を探りたい。

- 論 点**
- 1 子どもの育ちを保障する
  - 2 入所期間の長期化について
  - 3 アセスメント、積極的な介入と支援

**助言者** 河尻 恵 氏（日本福祉大学福祉経営学部 教授）

**座 長** 則武 直美（全国児童養護施設協議会 副会長／  
岡山県・岡山聖園子供の家 施設長）

## 第5研究部会

### 安心して社会生活を営むことを目指して ～一人ひとりのニーズに寄り添った自立支援とは～

会場 ホテルハマツ「平安の間」

#### 趣 旨

戦後 80 年の月日が流れ、戦災孤児の救済がきっかけだった養護施設は、その時々  
の社会のニーズに応え、子どもたちの命と尊厳、未来を守ることが使命だと信じて突  
き進んできた。そして今日、令和6年4月1日から施行された改正児童福祉法では、  
18歳という対象年齢制限が撤廃されることとなった。それまで思春期と言われる、  
中学生から概ね18歳までと定義されていたが、概ね22歳まで入所可能となり、更  
には18歳から30歳未満の青年期まで、支援の対象者が広がったことを意味している。  
これは、増加の一途を辿る虐待の相談件数を背景として、入所してくるケースの重篤  
化と、自立支援を必要とする若者の増加に、国として対応策が図られたとも言える。

本研究部会では、入所依頼から始まる「自立支援」をどのように捉え、児童養  
護施設がこれから構築できる仕組みや体制づくりを模索し、施設養護の専門性を  
拡充して、子どもたちが安心して社会生活を営むようになるための支援とは何か、  
課題も含めて参加者と協議したい。

#### 論 点

- 1 児童養護施設における自立支援の在り方の変容
- 2 当事者が考える「自立」と、養育者が考える「自立」
- 3 求められる自立支援とは
- 4 必要な仕組みや体制と課題

助言者 山田 勝美 氏 (山梨県立大学人間福祉学部 教授)

座 長 飯塚 富美 (全国児童養護施設協議会 総務部長/  
神奈川県・心泉学園 施設長)

## 第6研究部会

### 児童養護施設が取り組むべき課題とは ～社会的養育推進計画（後期計画）を受けて～

会場 ホテルハマツ「平安の間」

#### 趣 旨

昨年度、都道府県において検討が行われ、今年度より社会的養育推進計画（後  
期計画）が始まっている。各施設の高機能化及び多機能化・機能転換に向けた計  
画や、小規模化かつ地域分散化を進める見直しを進めていく段階である。

しかし、ケアニーズの高い子どもを抱えた施設養育機能と、地域の支援機能と  
してのニーズに応じた多機能化した児童養護施設の拡充を理想としながらも、人  
材確保・定着の面から難しい状況が生まれている。

児童養護施設の専門性を地域に生かしながら、社会的養育を必要とする子ども  
たちにとって安定的な養育環境にするためには、どう制度活用をすればよいのか。  
社会的養育推進計画（後期）を深堀し、その課題・対応を共有して、その先のあ  
るべき方向性を考える場としたい。

#### 論 点

- 1 各都道府県で求められるニーズ
- 2 社会的養育推進計画への対応・取組み
- 3 制度上の課題と児童養護施設の今後のあり方

助言者 浅田 浩司 氏 (葛飾区児童相談所 児童保護担当課長)

座 長 川瀬 勝敏 (全国児童養護施設協議会 制度政策部長/  
長野県・つつじが丘学園 施設長)

## 参加申込みについて

### 参加申込み

本大会へのご参加は、参加申込み専用サイトよりお申込みください。

URL : <http://www.mwt-mice.com/events/zenyokyo-fukushima>

申込み締切 **令和7年10月15日(水)**

専用サイトには全国児童養護施設協議会ホームページからもアクセスできます。

全国児童養護施設協議会トップページ ⇒ URL <https://www.zenyokyo.gr.jp/>

### 参加までの流れ

#### ① 上記「専用サイト」にて参加申込みをお願いします。

- 参加申込みの登録方法は、「専用サイト」トップページをご確認ください
- 研究部会（分科会）ごとに参加定員を設定し、先着順で受け付けます。お申込みにあたっては、異なる研究部会を第2希望までご記入ください。第2希望までのご記入がない場合、申込み状況により定員に余裕のある他の研究部会に割り振る場合があります。
- 手話通訳、要約筆記、点字資料等、車いすを使用する等、必要な情報保障がございましたら、申込書サイトの「その他」欄によりお知らせください。
- その他、不明な点やご要望がありましたら、下記事務局まで事前にお問合せください。

#### ② 申込み完了後、登録されたメールアドレスに参加申込完了と参加費振込みのご案内が配信されます。

- お使いのパソコン等でセキュリティのためメールの受信拒否設定をされている方は、[@mwt.co.jp] ドメインからのメールが受信できるようあらかじめ設定をお願い致します。
- 参加申込み完了後、翌営業日を過ぎても申込み完了メールが届かない場合は、名鉄観光サービス(株)福島支店まで必ずご連絡ください。
- 締切日：令和7年10月15日(水) までの変更・取消は、「専用サイト」において参加者ご自身による変更・取消操作を行ってください。
- 締切日以降の変更・取消は、専用サイトより「お問い合わせ」をクリックいただき、名鉄観光サービス(株)福島支店までご連絡ください。

#### ③ 11月7日(金) までに参加費のお振込みをお願いいたします。

- 参加費入金後の参加取消は原則として返金対応を致しかねます。大会資料の送付をもって代えさせていただきます。また、宿泊、意見交換会、昼食のキャンセルについては、別途所定の取消料をいただきますので、あらかじめご了承ください。

#### ④ 11月上旬を目途に、「大会参加券及び各種利用券」をお送りいたします。

- 大会当日は、参加券や各種利用券を忘れずにお持ちください。

## 留意事項

◆ 大会の **録画、撮影、動画配信、転用、および資料の複写・転載等は固く禁止** します。

◆ 個人情報の取り扱いについて

- 参加の申込みにあたりご提供いただいた個人情報は、本研究協議会の運営・管理の目的に限って使用します。
- なお、本研究協議会の申込受付等に関する業務を委託する名鉄観光サービス(株)福島支店には、上記の目的のため、情報を共有します。

◆ 参加者名簿の作成について

- 参加者、関係者間の相互連絡を目的とした「参加者名簿」を作成いたします。参加者名簿には、参加申込みの際に登録された「都道府県名」「施設名」「役職名」「氏名」を掲載いたします。
- なお、取り扱いにあたっては、上記「個人情報の取り扱いについて」に拠り、本大会に関係のない者への譲渡、貸与、目的外の利用を固く禁じるものとします。

### 参加申込み、お問合せ先

名鉄観光サービス株式会社 福島支店  
(担当：杉浦、熊坂)

〒960-8035 福島県福島市本町 5-5  
福島本町フコク生命ビル 2 階  
TEL：024-521-1341 FAX：024-521-1343  
営業時間：平日 9:30 ~ 17:00 (土・日・祝日休業)

### 大会運営、内容に関するお問合せ先

全国児童養護施設協議会 事務局  
(担当：平野、未廣)

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2  
新霞が関ビル  
社会福祉法人 全国社会福祉協議会 児童福祉部内  
TEL：03-3581-6503 FAX：03-3581-6509